

●協働学習

■児童生徒実践型

実践タイトル 文章と写真による構成、表現の工夫

本時のねらい

グループで作った物語を聞き手のことを考えて、感情を込めて読む。その際、録音することで、実際にどんな読み方だったのか自分で確認し、よりよいものに修正することができる。また、動画編集ソフトウェアで写真を取り込み、録音した音声に合わせてデジタル物語を完成させる。

主に活用したICT機器・教材・コンテンツ等とそのねらい

PC

デジタル物語にすることで、自分たちの読み方を聞いて何度も修正することができ、グループ1台でPCを使用して、互いに聞き合い、よりよいものになるようにした。

PC教材

写真と音声を合わせたデジタル物語を作るために、児童にとって操作が簡単で、短時間で動画を作ることができる動画編集ソフトウェアを活用した。

参考にしてほしいポイント

デジタル物語を作るために、写真を撮影、選択するところから始めた単元である。国語科での実践なので、一人ひとりにまず物語を十分に考えさせて書くことで、書く力を身に付けさせた。その後、グループでの話し合いによって、それぞれのよいところを集めて物語を作っていた。そのためのワークシートにも写真を貼って、写真に合わせて物語が書けるように工夫をした。

学習の流れ(分)		主な学習活動と内容	ICT機器・教材、コンテンツ等
本時の展開	0	○前時までの活動を振り返る。 ○本時の学習課題を知る。 ○活動の手順を知る。 ・動画編集ソフトウェアで写真を取り込み、並べる。 ・読みの練習をし、録音する。	(写真1)
	5	・動画編集ソフトウェアで、写真と録音したものを合わせる。	
	80	○動画編集ソフトウェアで写真を並び替える。 ○読みの練習をし、録音をする。 ・グループで聞き合い、思いが伝わるか確認する。 ○動画編集ソフトウェアで、写真と録音したものを合わせる。	・PC ・動画編集ソフトウェア(写真2・3)
まとめ	90	○できた物語を視聴し、感想を書く。 ○次時が、発表会であることを確認する。	



写真1: グループで一人ひとりが書いた物語を推敲



写真2: できた物語を読む練習をしてPCに録音



写真3: PCで編集作業

児童生徒の反応

本年級では、4月からPCを使って新聞やリーフレットなどを作成してきた。そのため、PCを使うことに抵抗もなく、3学期での実践ということもあり、集大成という意識で児童も取り組んだ。また、人前で話すことが苦手な児童も録音することによって、抵抗感なく自分の思いを上手に表現して読むことができた。

活用効果

評価の観点	国語への関心・意欲・態度
具体的容	物語を録音して聞くことで、内容に合わせて感情を込めて音読したり、写真に合わせて間をとったり工夫しながら、よりよい音読をしようとする意欲が見られた。また、グループで協働学習をすることで、話し合いながら読み方を工夫することができた。

実践の手応え

本教材は、文章の構成の効果や表現の効果を工夫して、物語を創作し書く教材である。書くことが苦手な児童にとっても、自分たちが撮影した写真を基に物語を作ることで、文章の構成に気を付けて書くことができた。デジタル物語を作ることは児童の意欲だけでなく、文章と写真の構成を考えるうえでも有効だと思う。